

経験を吸収して 新しいことに挑む楽しさ

学生企画「学生が知りたい! 土木人の心意気」(全5回)の第3回は、大規模更新という新しいステージへ挑戦する首都高速道路(株)の磯部龍太郎氏を紹介する。高速道路事業の建設・維持管理に携わってきた磯部氏に、新たなことを吸収する楽しさを余すことなく伺った。

——首都高速道路(株)に入社した動機を教えてください。

磯部——大学で1、2年に一般教養を学び、3年で専門になるときに土木分野に進みたいということを考え始

めました。その当時私は人の生活を基

盤から支えるインフラに関わっていき

たいと思っていました。スケールの大きい仕事がしたいと思い、そのなか

でも首都高速道路(株)を選んだ理由は、出身が関東で、車が好きだったこ

ともあって、首都東京の物流を担う高速道路に携わりたいからです。当

時、レインボーブリッジや鶴見つばさ橋など大きな橋ができていてかっこ

いいなと思って、そういう仕事に憧れたのもきっかけですね。でも、採用の

面接のときに大きな橋をつくりたいと言ったら担当の方に『もうそういう

仕事はないよ』といわれて、採用に落ちたと思っていましたが、なんとか受かっていました。(笑)

——首都高速での仕事内容、その中で嬉しかったことや苦労したことを教えてください。

磯部——入社当初は、施工業者などと打ち合わせをする先輩に同行し、議

事録を作成していました。用語がわからないと議事録はつくれないので、と

ても勉強になりましたね。仕事を進める上では入社してから勉強すること

の方が多く、それが大切だと思えました。慣れてくると、一人で打ち合わせ

をさせてもらえるようになり、想像以上に責任の重い仕事を任せてもらえ

て驚きました。しかし、知識もないし社内の人顔もわからないし、ある程度認められるまでは大変でした。出向

も経験し、社内の人とやりとりをして

いくうちにだんだん人間関係ができ

ていきました。その中でわかったのは、意見を聞いてもらうためには丁寧

に話をしたり、勉強したりすることが大事だということです。質問するとき

に、「単に「どうしたらいいですか?」と聞くとわかってないなって思われ

ますけど、「複数の施工法のうち、こういう理由でこの案がいいと思うの

ですがどうでしょうか?」って聞くと、勉強しているなって思ってもらえた

のか、先輩が優しく接してくれるようになりました。

——仕事をしていくうえでモチベーションは何ですか?

磯部——自分が設計した横浜環状北線が出来上がっていくのを見たとき



写真1 取材風景

[取材協力者] 磯部 龍太郎氏
首都高速道路(株) 建設事業部構造設計室

ISOBE Ryutarō

北海道大学大学院で河川工学を研究し、2001年修了、入社14年目。首都高速道路の新設に係る現場管理・橋梁設計等、供用路線の維持管理に係る設計業務を経験。現在、大規模更新事業の基本設計・施工計画立案を担当。



に、この構造は悩んだ末に部材を厚くしたなどその当時の設計の苦勞を思い出して感激しましたね。

日々の喜びとしては、たとえば港の近くの道路の仕事をすると港関係の方と仲良くなっているいろいろな話をしますよね。そのときに知識がつく。それが違う現場で生きてくるときは面白いと感じますね。それから、「今日やること、今週やること、今月にやること」のリストを書いた方がいよいよというのをよく後輩たちに言っています。目に見えて多くある課題が、一個消えるだけでも達成感を得られるし自分の管理にもなるかと思えます。

——今後この業界で注目と目につくことは何でしょうか？



写真2 東品川棧橋部・鮫洲埋立部の現場見学写真

磯部——やはり大規模更新ですね。現在、1964年の東京オリンピックにむけて構造物がつくられてから50年経っていて、高齢化が課題としてあげられます。1号羽田線の東品川棧橋・鮫洲埋立部は、当時東京オリンピックに間に合わせるために、用地取得の必要ない海上に建設されました。東品川区間は、棧橋構造となっていますが、床版が海水面に近い位置にあり、維持管理が困難な構造となっています。また、鮫洲区間の埋立部については、土留用の鋼矢板を補強し、本体構造として利用しています。両者ともに補修をしながら利用してきましたが、補修の頻度が高くなってきています。そのため、大規模な損傷が見つかったところは補修を続けることだけでは限界があるため、長い間、大規模更新を行い、併せて維持管理性の確保をすることが考えられてきました。今まで新設すること、補修することはあっても丸ごと架け替えを行うことはありませんでした。そこで大規模更新のあり方に関する調査研究委員会を立ち上げて、法案を整備する段階から準備する必要があると思いました。そのため、橋梁などのいわゆる土木の知識だけではなく、

法律の勉強などもしなくてはならないのが大変です。

——今までと大きく異なるのは、意思決定をスムーズにするために計画・設計・維持管理を部門ごとに分けずに一つのチームで行うことです。

近隣にモノレールが通っているため建築限界や作業ヤードがかなりギリギリである、いわゆる都市土木である中で、維持管理しやすい構造をつくることを考えています。私は保全の部署を経験しているのですが、保全に感じていたことが、現在、維持管理しやすい構造を設計する際に大いに役立っていますね。

——最後に学生へのメッセージをお願いします。

磯部——入社すると当然雑用のようなことをするときもあります。そのときに何でこんなことを、と思わずにチャンスだと考えることです。たとえば部長の書類をコピーするときには普段見られないものを見られますよね。



図1 東品川棧橋・鮫洲埋立部 更新イメージ

そういう小さなチャンスの積み重ねを大事にしてほしいです。

また、学生のうちはコミュニケーションをとって遊んでほしいです。たとえば仕事の仲間と飲み会の場に行くとか自分が取り組んでいる仕事と似たような経験をした話を聞くことができます。それを参考に仕事を進めることができるじゃないですか。そうやって知識を増やすのも楽しいですよ。それに飲み会を開催するにも、日時、人数、場所などを段取りします。それは会議などでも同じことで、人数、時間、場所を段取りするのは何ら変わらないのです。コミュニケーションの場に積極的に参加することはとても大切だと思いますよ。

(担当編集委員…平田望、朝倉萌子)